

〈ヤン・ハーベック 『幸福な死』から『異邦人』へ〉 講師：千々和 靖子（国際基督教大学教養学部客准教授）

『幸福な死』における「幸福への願求」 エネルギー カリーヴ的認識の「華麗な播種」

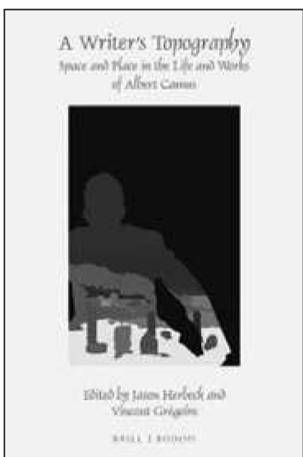
ヤン・ハーベック

【要旨】

本発表では小説『幸福な死』を取り扱う。若きカミュがこの作品を通じて、生あることへの愛、そして死には病氣や死についてどのように考察したのかを明らかにする。まず、主人公メルソーが殺人＝自殺から「あの八時間から解放される生活」に至るまでの道のりを辿る。次に、メルソーの「幸福への意志」を、『シシユポスの神話』の哲学と関連づけたい。最後に、本小説の中心をなす「恐るべし真理」がいかにして生前のカリーヴに絶えず影響を与えていたかが検討されるだろう。

Évelyne Trouillot 作家を研究してみる。

【プロフィール】 ジュイソン・ハーベック：
ボイシ州立大学（アメリカ合衆国・アイダホ州）フランス語・フランス語圏文学教授、世界諸言語学部長。カ



Évelyne Trouillot の小説 *La Mémoire aux abois (Memory at Bay, University of Virginia Press, 2010)* に後書きを寄せているが、アンティル文学を扱った著作『テキスト構築の真実：西語圏カリブ海における文学と文学的アイデンティティの構築』(Architextual Authenticity: Constructing Literature and Literary Identity in the French Caribbean, Liverpool University Press, 2017) を発表している。

カミュに関する研究成果に、『作家のトポグラフィ：アルベール・カミュの生涯と作品における空間と場所』(Vincent Grégoire らの共編、Brill, 2010) のほか、論集への寄稿 (Esprit Créateur, Présence d'Albert Camus, L'Herne Camus, The French Review, Francophone Postcolonial Studies など) などの書籍の分担執筆などがある。また

仏領アンティルの文学に関心を持つ、とのわけ Évelyne Trouillot、Daniel Maximin、Maryse Condé、Raphaël Confrant、Fabienne Kanor、Patrick Chamoiseau らの作家を研究している。

Évelyne Trouillot の小説 *La Mémoire aux abois (Memory at Bay, University of Virginia Press, 2010)* に後書きを寄せているが、アンティル文学を扱った著作『テキスト構築の真実：西語圏カリブ海における文学と文学的アイデンティティの構築』(Architextual Authenticity: Constructing Literature and Literary Identity in the French Caribbean, Liverpool University Press, 2017) を発表している。